

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	◦主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ◦生徒一人一人の基礎・基本の定着および学力向上 ◦学習意欲の向上と学習習慣の確立	中間評価	協同学習による主体的・対話的な授業展開に取り組んでいるが、今後は深い学びにつなげる工夫改善が必要である。教科によっては学習意欲の向上が必要である。	最終評価	◦各教科とも協同学習への取り組みにより主体的・対話的な授業を展開してきた成果が表れつつある結果となった。今後も協同学習や少人数・習熟度別の授業を通して生徒の学力向上につなげていく。
環境作り		◦授業規律の徹底と定着、基本的な指導技術の習得、協同学習の充実 ◦授業中の個別指導、反復学習や少人数・習熟度別指導、放課後学習教室によるきめ細やかな指導の充実 ◦生徒の意欲を高める評価や自学自習の意欲を促す課題、取り組みやすい課題の提示		◦概ね授業規律は定着しており、協同学習でも建設的な意見を交わすことができている。 ◦授業中では少人数・習熟度別指導などにより、個別指導や反復学習ができている。 ◦生徒が、基礎的な知識の習得し、関心・意欲を高められるよう教員側の指導技術の向上を図る。		◦授業規律の定着と協同学習への取り組みの成果が表れつつあるので今後も継続して取り組んでいく。 ◦英語・数学での少人数・習熟度別指導により、個別指導や反復学習による基礎学力が定着しつつあることが諸調査の結果より確認できた。 ◦生徒の基礎的な知識の習得、関心・意欲を高められる授業を展開するため今後も教員側の指導技術の向上を図る。

■ 教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10月） 	最終評価（２月）
国語	調 平成３０年度区学力調査結果（平均との比較） 現２年 区 関：+8.5 話：+7.2 書：+10.7 読：+9.4 知：+10 全国 関：+7.7 話：+5.3 書：+10.6 読：+11.1 知：+7.8 現３年 区 関：-0.8 話：+0.8 書：-0.7 読：-1.2 知：-1.5 全国 関：-0.2 話：-0.2 書：+0.9 読：3.4 知：-1.5 調 平成３０年度区学力調査結果 上記結果より、現２年はおおむね全観点において、区・全国平均を大きく上回る結果であったが、「話す・聞く力」がやや弱い。 現３年についてはほぼ区・全国と同じ結果であったが、「関心・意欲」を高めることが課題である。「読む力」においては、現２、３年とも全国を上回る力をもっている。	① どの学年も基礎学力を維持する。 ② 第２学年では、「話す、聞く力」を高めるための学習活動を毎時、意識的に取り入れる。 ③ 第３学年では、「関心、意欲」を高めるために単元への導入や発展教材などを工夫する。	① 漢字ノートや朝読書といった基礎学力を定着させる取り組みを大事にする。 ② 第２学年では思考、判断力を養うために、自分自身の意見を構築し、交わし合う活動を各単元で行う。例えば、意見発表や話し合い、作文などで表現する授業を行う。 ③ 第３学年は、導入を工夫するとともに、五感を効果的に使っためりはりのある授業展開を工夫する。さらに発展教材を使い、より深まりのある学習へと導く。	調 令和元年度区学力調査結果（平均との比較） 区 関：-0.1, 話関：+3.0, 書：-1.8, 読：-2.5, 知：-0.3 全国 関：+2.4, 話関：+4.4, 書：+2.5, 読：+4.0, 知：+4.9 上記結果より（３年） 授業での導入や展開の工夫、発展教材の活用などが、「関心、意欲」の高まりや「話す、聞く力」の正答率の上昇につながっていると思われる。一方で「書く力」「読む力」の正答率が66%程度と他の力に比べ、やや低い。初見の文章を読む力や自分の意見を書く力など、基礎力を応用する力をさらに高める。教科書以外の文章にも多く触れるために、新聞を読み、意見を書く学習を取り入れていきたい。	調 令和元年度区学力調査結果（平均との比較） １年 区 関：+1.5 話関：+2.3 書：+3.6 読：+8.9 知：+5.5 全国 関：+1.1 話関：+2.0 書：+2.2 読：+5.0 知：+6.7 ２年 区 関：+2.4 話関：+5.3 書：+5.0 読：+13.4 知：+5.5 全国 関：+6.4 話関：+8.3 書：+8.3 読：+12.4 知：+10.0 上記結果より １、２学年ともに全観点において、区・全国平均を上回っている。４月に課題としてあげた２年の「話す・聞く力」についても、わずかではあるが上昇している。自分の意見を構築し、交わし合う学習の成果が出始めたものとして、今後も意識的にそうした学習を取り入れていきたい。また、基礎学力定着をねらった学習を継続したことは、「知識・理解」の高得点につながったものと思われる。
社会	調 平成３０年度区学力調査結果（平均との比較） 現２年 区 関：+14.5 思：+7.9 資：+11.7 知：+10.3 全国 関：+13.7 思：+8.2 資：+8.9 知：+6.9 現３年 区 関：+4.3 思：+0.9 資：+3.3 知：+1.8 全国 関：+5.0 思：+2.4 資：+2.6 知：-1.1 調 平成３０年度区学力調査結果 （同一集団の成長の過程を追う：標準スコアによる分析） 現３年 標準スコア H29：49.7 → H30：50.4 上記結果より おおむね全観点において、区・全国平均を上回る結果であった。また同一集団の成長の過程においても、スコアは上昇している。昨年の学習状況の分析結果から、関心意欲の上昇に伴い、各観点の力も引き上げられたと考えられる。	① 基礎、基本の徹底による学力向上。 ② 得られた知識を活用した思考・判断、資料活用 の技能の育成。 ③ 関心意欲を高める課題設定や授業展開、発問、資料提示の工夫。	① 授業ごとの評価（プリント等の提出による生徒の自己評価）を行い、次回への意欲を高める声掛けや指導を行う。また、小テストを定期的に行い、学習習慣の定着を目指す。 ② 各種統計や地図、年表からの読み取り、表現し授業の中で共有する形態を定着させる。また ICT 機器を利用し、資料の提示、映像を視聴するなど、視聴覚資料を用いて、深い理解につなげる。 ③ 生徒間での学び合い（グループワーク・ペアワークなど）により生徒同士が主体的に、対話を通して、課題を追及する活動を実践する。	調 令和元年度区学力調査結果（平均との比較） 区 関：-0.4, 思：-0.3, 資：+1.3, 知：+1.4 全国 関：-1.1, 思：+0.7, 資：+0.2, 知：+0.4 上記結果より（３年） 関心意欲の観点以外において、ほぼ区・全国平均を上回る結果であった。生徒間での学び合い活動を実践し、生徒同士が活発に対話をし、発表に対する質問も活発になされるなど、意欲をもって取り組んでいる様子がみられた。特に公民の授業では時事問題を多く扱うことで、生徒はメディアを通して知った知識と関連させて学習することができ、公民の授業が楽しい、ニュースをよく見るようになったとの声が生徒からあがるようになった。今後はそれらのニュースに対する生徒の意見を書く取り組みを行っていく。	調 令和元年度区学力調査結果（平均との比較） １年区 関：+6.1 思：+6.1 資：+5.1 知：+6.7 全国 関：+6.2 思：+6.5 資：+5.0 知：+5.1 ２年区 関：+9.2 思：+11.5 資：+13.6 知：+11.1 全国 関：+12.5 思：+13.2 資：+16.1 知：+15.2 上記結果より １、２学年ともに区、全国平均値を上回り良好な状況である。各観点を比較すると、１学年は資料活用 の技能や知識・理解を高めていくための取組みが必要であり、基礎・基本の定着を図っていくとともに、単元ごとに関心意欲を高める課題設定や授業展開を行っていく。 ４月の課題③について、生徒が興味関心をもつ話題をもとに授業を行うなどの工夫したこと、課題①の基礎基本の徹底と、課題②について、学んだことをレポートや新聞にまとめるなどの言語活動を行うことにより、区や全国平均よりも高い数値につながったと考えられる。

	① 平成30年度学力調査結果より平均正答率による分析 現3年 合計 目標値+3.5 区+4.0 全国+7.1 基礎 目標値+3.5 区+3.2 全国+6.1 活用 目標値+3.9 区+7.0 全国+11.0 現2年 合計 目標値+10.9 区+8.8 全国+10.1 基礎 目標値+9.6 区+8.0 全国+8.6 活用 目標値+15.5 区+11.7 全国+15.2 上記結果より、目標値を越えており概ね良好と思われる。 昨年度と比較しても、全体で第1学年は11.5ポイント上回り、 第2学年は7.8ポイント上回っている。 2学年、3学年ともに区の平均を上回っている。 3学年は無答率が高い問題で37.5% 2学年は無答率が高い問題で26.6%であった。	① 数学においては習熟度に分けて授業を展開するため、平均正答率は比較的高いものの、生徒の学力のばらつきは少ないとは言えない。 ② 文章から立式する問題への無回答率が第2学年26.6%、第3学年37.5%と高いが目立つ。 ③ 第2学年では、数学的な表現を用いて考え、わかりやすく説明する力を高めることが課題である。 ④ 第3学年では、基礎計算のスピードアップ、精度アップが課題である。また、数学的な表現を用いて考え、わかりやすく説明する力を高めることが課題である。	① 意欲を向上させるために数学の魅力が伝わるような授業を心がける。小テスト、追加問題、補充問題、など既習内容を活用する機会を増やし、自身の力の伸長を測る取り組みを行う。 ② 現在の学習内容が社会生活のどのような場面で、役に立つのかなどを伝えることで、興味の湧く授業展開を工夫する。 ③ 図、表、式、グラフ、数学の用語・記号などの数学的な表現方法のよさを実感し、自分なりの表現方法で道筋を立ててわかりやすく説明し、伝え合うようなグループワークを積極的に取り組む。	① 令和元年度 新宿区学力調査結果（平均との比較） 全国 関：+12.1 見：+14.6 技：+10.9 知：+10.1 区 関： +6.2 見： +7.0 技： +4.4 知： +5.5 上記結果より 全ての観点において、区、全国の平均値を上回る結果であったため、おおむねよい結果であったと考えられる。しかし、正答率50%未満の生徒の割合が全体の3割程度おり、これらの生徒の底上げを図っていく必要がある。習熟度別の授業展開を活かし、正答率50%未満の生徒への指導を手厚くする。また、領域別の正答率も全ての観点において、全国、区の平均値を上回っているが、「図形」と「資料の活用」の観点で差が小さい。今後の指導では、解くことだけでなく、知識・理解の重要性を教える指導が必要である。	① 令和元年度新宿区学力調査結果（平均との比較） 1年 区 関：+3.6 見：+5.3 技：-0.9 知：+0.5 全国 関：+7.7 見：+8.7 技：+5.9 知：+5.3 2年 区 関：+7.5 見：+8.4 技：+7.2 知：+8.7 全国 関：+12.9 見：+13.0 技：+9.2 知：+10.0 上記結果より 全ての観点において、区、全国の平均値を同等または上回る結果であったため、良好な結果であると考えられる。しかし、第1学年は技能の観点で区より0.9ポイント低い結果となってしまった。今後は、基礎クラスは基本的な計算力の定着を図るために、授業内にて、生徒が計算する機会を増やすなど、数学的技術の向上を図る取り組みを進めていく。無回答率も10%台と良い傾向である。 ② 授業の中で証明問題などを通して、数学的な表現力は高められている。計算問題を繰り返し練習することで、計算力の向上は図れている。
数 学					
	① 平成30年度区学力定着結果：平均との比較 区 関：+8.8 考：+10.6 技：+12.8 知：+9.9（現2年） 全国 関：+2.8 考：+5.3 技：+9.7 知：+4.5 区 関：+0.9 考：±0 技：-0.5 知：-1.6（現3年） 全国 関：-0.6 考：-1.9 技：+0.5 知：-7.7 現2年生は区、全国平均点ともに上回り、現3年生は同等か下回っているが、現2、3年生ともに全国平均とほぼ同程度で、概ね良好である。しかし、現2年生では「植物の分類」、現3年生では「生命」、「自然事象についての知識・理解」の分野で弱い面も見られる。	① 基礎知識の定着を図る。 ② 実験技能を向上させる。 ③ 思考力、判断力、表現力を向上させる。	① 基礎知識の定着を図るために、確認テストやパラテストと問題集を使った反復練習を進める。 ② 実験内容を充実させ、技能の向上を図る。 ③ 思考力、判断力、表現力を向上させために、グループ活動を学び合いの場をつくり、実験データのまとめとその分析をする実習を充実させる。	① 令和元年度 新宿区学力調査結果（平均との比較） 全国 関：-0.6 思：-0.5 技：-9.3 知：-2.4 区 関：+3.0 思：+2.8 技：-0.1 知：+1.4 上記結果より 関心・意欲・態度、思考・表現や知識に関して新宿区の平均値より上回る結果であったが、技能は0.1とほぼ同等レベルであった。全国平均と比較すると定着率は良くなかった。実験手順の確認を丁寧に行い、技能面の向上を図ることやさらなる知識の定着を、こまめな確認テストにより図り、学習内容の定着が不十分な生徒に対して、定着を促していく。	① 令和元年度区学力定着結果：平均点との比較 （1年）区 関：+6.0 考：+10.8 技：-2.5 知：+6.3 全国 関：+5.9 考：+10.4 技：-0.1 知：+3.0 （2年）区 関：+10.7 考：+9.3 技：+7.6 知：+3.8 全国 関：+4.1 考：+3.9 技：+2.6 知：-1.7 第1学年については、技能の観点を除き、区、全国平均点ともに上回っている。第2学年については、知識の観点を除き、区、全国平均点ともに上回っている。全体的に見ると、概ね良好である。しかし、第1学年の技能や第2学年の知識・理解など観点別では未だに弱い面もあり、4月にあげた課題①、②については次年度も引き続き取り組んでいく必要がある。また、思考・表現については問題分野別で弱い面が見られるため、理解度の低い分野を精査し、重点的に授業改善に取り組むなど課題③についての対応をし、今後の指導へとつなげていく。
理 科					
	① 平成30年度区学力調査結果（平均との比較） 現2年 区 関：+9.3 表：+11.6 理：+10.0 知：+9.3 全国 関：+17.7 表：+18.0 理：+19.1 知：+15.8 現3年 区 関：+4.3 表：+4.9 理：+4.2 知：+2.1 全国 関：+14.3 表：+15.0 理：+14.0 知：+9.2 現2年生、現3年生ともに区内、全国においても平均値を大きく上回る結果となった。特にコミュニケーションや表現の向上が顕著なのは、少人数授業により個々の英語表現の場が多くあるためだと考えられる。また理解の能力の向上にはICT機器の活用やALTとのやりとりによる成果だと考えられる。「言語や文化への知識」は伸びる余地があるので、今後は知識の定着を図る。	① やりとりの能力向上 ② コミュニケーションへの関心・意欲・態度の形成 ③ 表現力の向上	① ペアワーク、グループワークによる生徒間のやりとりを多く取り入れる。また、ALT、学習支援員とのやりとりも積極的に行っていく。 ② ウォームアップやアクティビティを充実させ、生徒にコミュニケーションに対する興味・関心を持たせる雰囲気を作る。 ③ パフォーマンステストを軸にスピーチやスキットの活動を通して、相手に意思を伝えることができる能力を養う。	① 令和元年度 新宿区学力調査結果（平均との比較） 全国 関：+11.1 表：+14.8 理：+12.1 知：+12.6 区 関： +3.3 表： +5.1 理： +4.0 知： +5.9 上記結果より 各観点において、区、全国のどちらも平均値を上回る結果である。しかし、平成30年度区学力調査結果と比べてみると各観点の区、全国の平均とのプラスの数値が小さくなっている。課題となっていた表現の能力においては大きな変化はないが、関心・意欲・態度の観点では向上の余地が見受けられる。今後、表現力向上のため生徒間のやりとりの場を増やし、同時にその活動からコミュニケーションへの関心・意欲・態度の形成も図る。また、ウォームアップやアクティビティの改善により、生徒の活動に対する主体性の向上が見受けられた。	① 令和元年度区学力調査結果（平均との比較） 1年 区 関：+1.7, 表：+1.6, 理：+1.1, 知：+0.8 全国 関：+6.8, 表：+4.7, 理：+6.1, 知：+2.7 2年 区 関：+3.8, 表：+4.2, 理：+3.5, 知：+3.7 全国 関：+6.5, 表：+5.8, 理：+6.4, 知：+6.1 第1、2学年ともに区・全国の平均を上回る結果となっている。しかし、言語や文化についての知識・理解における数値がほかと比べて小さくなっていることが分かる。この差を補うために授業のまとめにはライティングの活動を入れて、学習した文法事項等を知識としてしっかりと身につけさせる。 ② 授業での様子、パフォーマンステスト やりとりの能力もペアワーク、グループワークから向上が見て取れるようになってきた。活動にも積極的に参加し、コミュニケーションへの意欲を示している。その成果として、スピーチの発表などが1学期当初と比べ全体的に高い評価となっている。
英 語					

①…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

②…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。